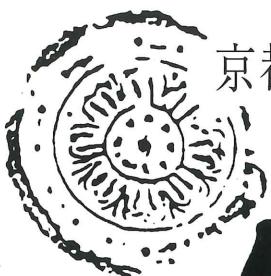


京都市文化観光資源保護財団



企報

82

NO.

2001. 11. 15

もくじ

—寄稿—

「京の近代化と土木遺産」

京都大学大学院工学研究科助手

京都市近代化遺産調査委員会委員 田中尚人 P 2

「京都の庭園の歴史」

京都市文化市民局文化財保護課技師 菅沼 裕 P 5

—保護財団の活動—

P 7





京の近代化と 土木遺産

田 中 尚 人

平成11～13年度の三ヶ年の事業として、京都市では近代化遺産調査を行っています。近代化遺産とは、明治維新以来、欧米の技術や考え方を範として日本に産業革命が起き現代へと繋がる近代化の過程の中で、様々な産業の発展に貢献があり、次世代に残し伝えていくべき風格を備えた優れた歴史的構造物を指します。

この近代化遺産には、これまであまり遺産として認識されることの少なかった、交通（道路、鉄道、水運）、防災（治水）、産業基盤（発電、鉱山、製塩）、農業土木（灌漑、干拓）、環境衛生（上下水道、公園）、軍事・防衛に関連した多くの土木遺産が含まれています。構造物単位で見てみると、橋・トンネル（道路、鉄道、水運）、ダム（発電、砂防、水道、農業）、堤防（河川、海岸）、水門（樋門、閘門）、建屋（発電、水道）、などが挙げられ、これに駅舎や工場なども加わる場合があります。

土木構造物は、規模が大きく、施設がネットワーク化されて広域に存在し、公共性の高いものが多いので、地域と深く結びつき、まさにその土地の風土を継承する文化財としての価値が高いと考えられるようになってきました。

京の近代化は、天皇の東行により意氣消沈した人々の停滞を打破するため、樋村正直（京都市大参事、後に第二代知事）、山本覚馬、明石

博高らによって、「京都策」と呼ばれた積極的な近代化政策が推進されたのです。欧米の新技術を導入した勧業諸施設として、舎密局、炭酸泉場、麦酒醸造所、牧畜場、織殿、染殿、等が設置、勧業施策の一環として博覧会も重視されました。伝統産業の近代化では、西陣にジャガード（紋織機）をいち早く導入したことなども評価されます。こうして京都の人々の心を鼓舞し、都市の誇りを取り戻すために近代化への道が示されたのです。

産業界の近代化に応えるために、インフラストラクチャーの整備も進みました。近世以来の舟運、街道中心の都市間交通に、明治10年（1877）官設鉄道が挿入され、明治23年4月には京の近代化の根幹を成した琵琶湖疏水が完成しました。琵琶湖疏水の建設目的には、製造機械（用の水車動力、後に水力発電となる）、輸送（舟運）、灌漑、精米水車、防火、井泉、衛生の7つが挙げられており、まさに都市に住もう人々の生活そのものを支える都市基盤となつたのです。

当初は芳しくなかった水力発電による売電事業も徐々に京都市の財政を潤すようになり、琵琶湖疏水事業を拡張させる動きが起き、市の井泉の枯渇、水質の悪化などから上下水道への対策が要望され、同時に電気鉄道の整備も求められました。ここに明治期京都の「三大事業」（第二琵琶湖疏水建設、道路拡築・電気軌道、上水道）が着工されたのです。明治45年6月には「三大事業竣工祝賀式典」が行われ、日本全体でも日清・日露戦争後の特需景気により第二次工業化が大きく進みました。

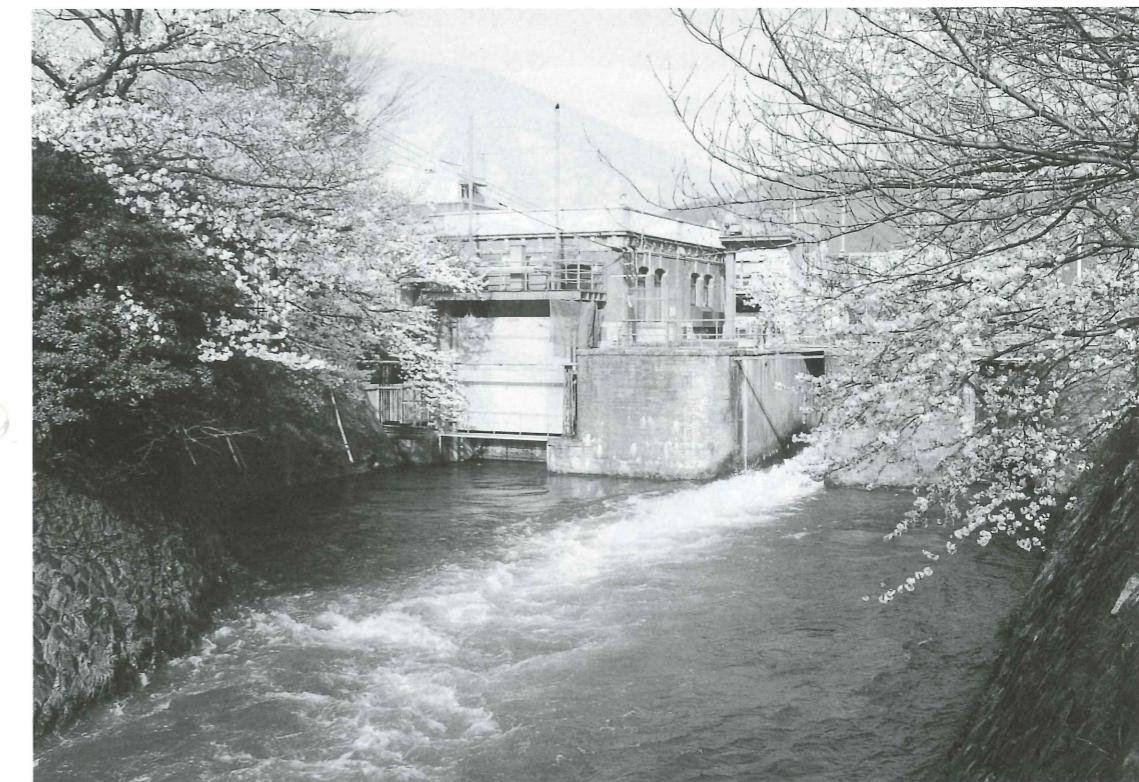
大正7年（1918）4月より京都市は、大阪府

とともに「東京市区改正条例及び附属命令」の準用を受け、翌年4月には都市計画法、市街地建築物法などが公布されました。これにより市区改正委員会（後の都市計画京都地方委員会）が組織され、同年12月には京都市の最初の都市計画事業として、道路、橋梁などの改良を含んだ「京都市区改正街路」計画が認可されました。京都市中心部の幹線街路網は、明治の三大事業の道路拡幅とこの市区改正街路によって骨格が形成されたと言えます。

大正11年8月には都市計画区域が設定され、「公園都市タルノ特徴ヲ益々發揮」するために、スプロールが懸念された郊外への景観的な配慮も示された京都の将来構想が示されました。昭

和3年（1928）11月「御大典」に湧く京都のインフラストラクチャーは一新され、現代へと続く観光都市としての色合いを強めました。昭和6年、京都市は伏見市をはじめとする1市26町村の大合併により市域は4.8倍に拡大し、翌年には人口も百万人を超え、「大京都」として大きな都市的発展を見たのでした。

以上のように京の近代化における土木構造物の建設年代は、①近世の技術の転用と試作品の時代、②琵琶湖疏水を中心とした欧米技術の移入期、③明治の三大事業と都市計画の展開期、④昭和初期の都市化「大京都」の時代、と大きく4つの時代に分類することができます。土木



夷川閘門及び発電所

構造物の整備には、初期には試作的に技術の適用性の検査などに用いられ、都市が大きく成長する際には均質のものが大量に整備されるという特徴があります。

土木遺産の中には今もなお現役で、私たちの生活を支えているものもあります。これらの保存・活用にはその価値の認識が重要であり、一つ間違えると大切な宝物を簡単に失ってしまいますし、遊園地の遊具のように活用されかねません。都市の記憶が刻まれたこれらの土木遺産を、次世代に適切なストックとして伝えていくために、皆様のご理解ご協力をお願いしたいと思います。

(京都大学大学院工学研究科助手・京都市近代化遺産調査委員会委員)



近鉄嵐山橋梁 ※登録文化財

京都の庭園の歴史

菅 沼 裕

京都で庭園が作られたのは、延暦13年(794)の平安京造営以後と考えられています。

庭園自体は飛鳥時代以前から作られていますが、京都は三方を山に囲まれ、湧水や川の水も豊富で、流れと池を中心とした庭園を作るには格好の地と言えます。

そのため、平安時代初期から、平安京内に神泉苑、淳和院、齋宮等の庭園が数多く作られましたが、これらの庭園は寝殿の正面を中島のある池とし、流れ（遣水）から池に水を流し込む寝殿造庭園といわれるもので、平安時代後期に至ると、鳥羽や伏見といった平安京の近郊にも作られていくようになりました。

こうして多くの庭園が作られると、作庭の手法も確立していき、平安時代末期には、日本最古の作庭秘伝書といわれる『作庭記』が著されました。

この『作庭記』には、庭園の構成（地割）から、石組、滝や遣水の作り方、植栽等の様々な技法について記載されており、枯山水、遣水といった言葉は今でも使われています。

また、平安時代中期以降、仏教が広がるとともに、末法思想が広まり、庭園を極楽浄土に模した浄土式庭園が誕生します。

浄土式庭園の構成は、基本的に寝殿造庭園と大差はありませんが、寝殿ではなく、阿弥陀堂等の寺院建築が建てられるようになりました。

この浄土式庭園は、京都を皮切りに日本各地で作られるようになり、岩手県平泉の毛越寺等、作庭技術は全国に普及していきました。

また、寝殿造庭園は貴族の邸宅として作られましたが、鎌倉時代には、武家の邸宅である書院に庭園が作られるようになります。これを書院式庭園とも言います。庭園はやや小さくなり、作りも簡素となっていきますが、基本的には浄土式庭園に近い形態が引き継がれています。

こうした傾向は、室町時代にも引き継がれ、西芳寺（苔寺）や天龍寺や、金閣・銀閣で名高い鹿苑寺・慈照寺等が作られていました。

こうして庭園が作られていく中で室町時代を代表する作庭家として夢窓国師があげられます。夢窓国師以前の庭園は、自然の風景を模していたとはいえ、地形的な変化はやや少なく、池の護岸等も比較的単調なものでした。しかし夢窓国師は、自然の一部の景色を組み合わせて庭園を構築し、地形的な変化をもたらせる残山剩水と呼ばれる技法を用いて、多様な景観を持つ庭園を多く作りました。これは当時としては画期的な手法で、その後の作庭手法に大きな変化をもたらしました。



二条城二之丸庭園

また、室町時代には禅宗の普及とともに、枯山水式庭園が作られるようになります。それまでは庭園の一部として作られていた枯山水が、独立した庭園としての地位を確立しました。

そして、桃山時代の到来とともに庭園に大きな影響を与えたものに茶道があげられます。茶道が確立し、茶の湯をたしなむ場として茶室、茶庭（露地）が作られ、武士だけでなく、庶民の間にも普及していきました。

また、江戸時代になり、世の中が治まっていくに連れ、大名やその家臣達が主君を迎えるために庭園を作るようになります。これを大名式庭園ともいいますが、広大な敷地に茶室や枯山水等を取り入れ、庭園の中を回遊して観賞することを主眼とした庭であるため、様式としては廻遊式庭園と呼ばれます。

また、京都では、武家以外の庭園として、京都御所、桂離宮等の他、京都御苑内の拾翠亭（旧九条家）等の天皇家や公家の庭園も作られ、今に残っています。

江戸時代の作庭家として名高いのは小堀遠州です。遠州は江戸幕府の作事奉行として各地の作庭に関与し、京都では、二条城二之丸庭園、金地院庭園等、多くの作庭に関わりました。デザインも巧みで、斬新な意匠や借景をうまく取り入れた作庭を行いました。

そして、明治時代に入り、海外の造園技術が導入されると、西洋風の幾何学的なデザインの庭園・公園も作られる



対龍山莊庭園

ようになりますが、そうした中で京都を中心に活躍した作庭家が植治（小川治兵衛）です。

植治は、巧みに水の流れを演出し、それまでの作庭手法に加え、芝生の広場や、サツキ等の低木を群植を多用する独特の手法によって、多くの作庭を手掛け、まずは平安神宮神苑や無鄰庵を皮切りに、対龍山荘等、南禅寺界隈で数多くの作庭を行うとともに、明治から昭和初期に全国的な作庭活動を展開してきました。

特に南禅寺界隈では、松が多く生えていた東山を背景に、松や楓等を用い、東山と一緒にした庭園となるよう工夫されています。

このように、古代から様々に作られてきた庭園は、時代が古いかどうか、デザインに特徴があるということだけでなく、当時の造園技術・技法の水準を窺うことができる生きた資料としても貴重であり、その多くが文化財や公園として指定・保存されて現在に至っています。

（京都市文化市民局文化部文化財保護課技師）

「京都の文化財を守る会」ボランティア部員の方々の協力のもと 文化財特別公開事業を実施

当財団では、文化観光資源保護の普及啓発事業の一環として、文化財特別公開事業などを実施しています。本年もこれまでに5回の事業を実施してきましたが、実施にあたっては毎回「京都の文化財を守る会」ボランティア部員の方々に受付・誘導・説明などのお手伝いをいただいています。

最近実施しました事業の報告とともにボランティアの皆さんのが従事されている様子を紹介します。

文化財企画展

「京都・住まいの近代—西洋館からモダン住宅へ—」
の開催と特別見学会を実施



7月1日～22日、京都芸術センターにおいて開催しました。明治から昭和戦前期までの京都の近代洋風住宅の変遷を竣工当時の図面や古写真などで展示紹介しました。期間中1,967名の入場者を数えました。

又、7月20～22日には、関連事業として同展で紹介しました「長楽館」と「駒井家住宅」の特別見学事業を実施しました。

『長樂館』では、普段公開されていない建物内部や建築当初の家具などを鑑賞していただき、『駒井家住宅』では、初めて夜間にライトアップを行ない音楽の演奏などを聞きながら普段見学出来ない建物内部や貴重な資料などを鑑賞していただきました。見学者も2カ所で延べ1,725名を数えました。

京都市指定文化財 杉本家住宅 「祇園祭屏風飾り」特別公開を実施



7月8日～16日に京町家杉本家住宅の『祇園祭屏風飾り』の特別公開を初めて実施しました。祇園祭の宵山には行われる屏風飾りと夏の室礼などを見学していただきました。又、15・16日の宵山には夜の公開を行ない、燈籠の灯りなどで演出された露地庭など、日中とは違う京町家の魅力に触れていただき、期間中4,432名の方々に参加いただきました。

京の文化財探訪

『建仁寺「開山堂(旧護国院)』と「両足院」を訪ねて』を実施
去る10月14日～21日に2,520名の参加者のも
と実施しました。開山堂では、建物や客殿襖絵
「龍虎図」などを、又「両足院」では、長谷川
等伯筆の書院襖絵や京都府指定名勝庭園など普
段は、非公開の両寺院の文化財をそれぞれ鑑賞
していただきました。



受付、誘導・案内をされているボランティアの皆さん。(写真は「対龍山荘庭園特別公開」より)



「京都の文化財を守る会」は、昭和43年（1968）に結成された京都の文化財保護と自然景観の保

文化財専門委員会

当財団が行っています文化観光資源や伝統行事芸能の保護事業に対する助成対象を審議します今年度の文化財専門委員会を去る10月3日に5名の委員の出席のもとに開催しました。

審議の結果、今年度申請がありました建造物7件、庭園1件、伝行事14件、芸能26件が助成対象に選定されました。

なお、助成額は、理事会において交付決定します。

役員の異動

役員にご就任いただいている団体等の代表者の交替に伴い、新役員が次のとおり選任されました。任期 平成13年9月1日～平成14年6月23日

(敬称略・順不同)

新任役員

- | | |
|------|-------------------------------|
| 顧問 | 山口信夫（日本商工会議所会頭） |
| 常任理事 | 村田純一（京都商工会議所会頭） |
| 常任理事 | 高梨昌孝（横浜商工会議所会頭） |
| 理事 | 磯辺とし子（京都市会議長） |
| 理事 | 梅林 等（京都市会副議長） |
| 理事 | 小林 清（財団法人日本交通公社社長） |
| 評議員 | 武野以徳（浄土真宗本願寺派総長） |
| 評議員 | 太田宏次（中部経済連合会会長
中部電力株式会社会長） |
| 評議員 | 平島 治（日本建設業団体連合会会長） |

退任役員

- | | |
|------|-----------------------------------|
| 顧問 | 稻葉興作（前 日本商工会議所会頭） |
| 専務理事 | 今西祥博 |
| 常任理事 | 稻盛和夫（前 京都商工会議所会頭） |
| 常任理事 | 對馬好次郎（前 横浜商工会議所会頭） |
| 理事 | 二之湯 智（前 京都市会議長） |
| 理事 | 今枝徳蔵（前 京都市会副議長） |
| 理事 | 今井久吾（前 財団法人日本交通公社会長） |
| 評議員 | 蓮 清典（前 浄土宗本願寺派総長） |
| 評議員 | 安部浩平（前 中部経済連合会会長
〃 中部電力株式会社会長） |
| 評議員 | 前田又丘衛（前 日本建設業団体連合会会長） |

募金にご協力いただき
ありがとうございました

寄付者芳名録（敬称略） H12.12.9.～H13.7.10

法人及び団体の部

[特別会員]	
※住友信託銀行株式会社京都支店	<18,709,000円>
※京都シティハーフマラソン実行委員会	<6,095,817円>
※京都展催事出展商社の会	<3,936,918円>
※ケイコイン工業株式会社	<863,000円>
※厚木市立睦合中学校	<788,704円>
[普通会員]	
※厚木市立玉川中学校	<372,940円>
株式会社長崎西沢本店	<100,000円>
[賛助員]	
※薬師寺	<40,000円>
清泉祭実委福祉局長 高木	<40,000円>
※有限会社東海設備工業	<32,500円>
豆新本舗	<24,000円>
※茶道文化会	<8,000円>

固人の部

彦昭博子	子止男	二雄	博吾	男子	幹男	夫子	二子	英男	滋	一三郎	子郎	晃治士	子郎	子彦	美彦	郎子	郎子	ま子介江	一
会員】	砂佐西澤	辺本島田	毛島良本	中林斐村	田部村	水嶋村	越瀬	西井村	田谷官	野野水	木崎	中内	田野	埜村	西	林本寺	腰江	波	太代三
特別	※※※※※※※※	※※※※※※※※	※※※※※※※※	※※※※※※※※	※※※※※※※※	※※※※※※※※	※※※※※※※※	※※※※※※※※	※※※※※※※※	※※※※※※※※	※※※※※※※※	※※※※※※※※	※※※※※※※※	※※※※※※※※	※※※※※※※※	※※※※※※※※	※※※※※※※※	※※※※※※※※	喜工
会員】	利氏祥照	道保国	純康	施行仁	正幸	達孝	純俊	玉隆達	功信	貞良	忠弘	清昌	昭史	安永	入信富	和義芳	徳ふは良啓好昇	太み	
会員】	伊岩今白	渡岡高辻	三鹿奈岸	田栗甲	西安阿	奥清	西船廣今	岩西石上	茶	野野水	木崎	中内	田野	埜村	西	林本寺	腰江	波	大見

〔普通会員〕

八
崎藤原島田村山山野崎原田田谷田
禦二子子三子一歳治郎治之博滋博
漱激順和脩健英長正恒
三

子一子三二德一広男子雄夫治實已通男枝操子江肆子弘世子也正子隆康え次嘉昭子子也と美代子滿子子子雄子子茂次子又雄子平博枝彦勝成子雄信子司子江保代江子子子男の代合住キ久佐美和太美文伸澄善正健勝義久外昭敏直善信一清熙日正治准達貞徳き見多喜悦百哲政照和知恵健と節孝ス慶嘉英利俊藤勝克正利重裕節左忠眞都重節澄美弘道力允直悅政芳益行直里妙幸忠茂翁奢喜野池田林邊西林藤田喜田野木附棲下島田森田黑樺村廣橋本藤橋垣下河田辻原川林見井羽野橋川隅山間村澤山田村川中岡野良田井西村輪藤部見原村藤藤村村川田富谷川本桐尾井村岡嶋水田井十小坂坂浅高藤渡赤小小佐辻西林小島平松岩五松高中東盛石井木友古松南進高木並福中押吉細小楠鷹佐高湯八遠勝田中蔭森西水吉田農奥吉柴藤辻大中三伊磯塙小川佐新竹環玉磯稻松南上岡片松今梅吉田福塙石笠

< 70,000円>
< 70,000円>
< 66,500円>
< 62,000円>
< 60,000円>
< 60,000円>
< 60,000円>
< 59,000円>
< 55,000円>
< 55,000円>
< 55,000円>
< 52,000円>
< 52,000円>
< 50,000円>
< 50,000円>
< 49,000円>
< 48,000円>
< 46,600円>
< 45,000円>
< 44,000円>
< 43,000円>
< 42,000円>
< 42,000円>
< 41,000円>
< 40,000円>
< 40,000円>
< 40,000円>
< 40,000円>
< 39,000円>
< 39,000円>
< 36,000円>
< 36,000円>
< 35,000円>
< 35,000円>
< 35,000円>
< 34,000円>
< 33,000円>
< 33,000円>
< 32,000円>
< 32,000円>
< 31,000円>
< 31,000円>
< 30,000円>
< 30,000円>
< 30,000円>
< 30,000円>
< 30,000円>
< 30,000円>
< 29,000円>
< 29,000円>
< 29,000円>
< 28,428円>
< 28,000円>
< 27,000円>
< 27,000円>
< 27,000円>
< 27,000円>
< 26,800円>
< 26,000円>
< 26,000円>
< 25,000円>
< 25,000円>
< 25,000円>
< 24,000円>
< 24,000円>
< 24,000円>
< 24,000円>
< 24,000円>
< 23,000円>
< 23,000円>
< 22,000円>
< 22,000円>
< 22,000円>
< 21,000円>
< 21,000円>
< 21,000円>
< 20,000円>
< 20,000円>
< 20,000円>

著者、なお、編集の都合により今回ご紹介の方につきましては、今後順次紹介させて承下さい。

2002年版京の文化財カレンダー

「京の歳時記」

毎年、作成しています当財団のオリジナルカレンダー2002年版は「京の歳時記」をテーマに発行いたします。

京都の四季折々に行われる年中行事や民俗芸能などをとりあげ、美しい写真や年中行事の一覧をまじえて紹介しています。

会員の皆様方でご希望の方は、下記の要領によりお申し込み下さい。

規 格：B3 サイズ・8枚もの(表紙・解説含む)

申込方法：文化財カレンダー希望 住所 氏名

(法人の場合は、法人名と代表者名)、電話番号、会員番号(当会報送付時の宛名に記載しています番号)を記入していただき、郵送料切手310円分を同封のうえ封書でお申し込み下さい。

申込期限：12月15日（必着）

申込先：当財団事務局 宛

- ・申込資格は、当財団会員に限ります。
- ・申込部数は、法人・個人ともに1部とさせていただきます。
- ・カレンダーの発送は、12月上旬頃より順次発送いたします。
尚、会員以外の方や、会員で2部以上をご希望の方は、実費領布も行ないますので当財団事務局までお問い合わせ下さい。

第32回 京の郷土芸能まつり 「都の賑わい祭りまつり」

京都市域に伝承されている郷土芸能の公開の場と多くの方にその芸能の良さを紹介し、保存育成に対する理解と協力を呼びかけるため「京の郷土芸能まつり」を開催しています。

今回は、京都の三大祭に関わる芸能に京都府と小京都からの民俗芸能の特別出演を加えて華

やかな舞台をご覧頂きます。



日 時 平成14年2月24日(日)
会 場 京都会館第1ホール
(京都市左京区岡崎)

出演芸能

葵祭より「東游」と斎王代「御禊」、
祇園祭より長刀鉾「祇園囃子」と
「稚兒舞」、時代祭より「維新勤王
隊列」と「徳川城陣上洛列」

京都府の芸能 上り

与謝郡伊根町「八坂神社祭礼船屋台行事・屋台囃子」

小京都の芸能より

富山県城端町「曳山祭り・廢唱」

主 催 京都市・(財)京都市文化観光資源保護財団・(社)京都市観光協会
後 援 (財)平安建都1200年記念協会・(財)祇神会
協 賛 全国京都会議
入場料 2,000円（全席指定）

財団会員の方は、料金を1,500円に割引させていただきます。(但し、お一人2枚まで)ご希望の方は、当財団事務局までお申し込み下さい。

財団法人京都市文化観光資源保護財団の
インターネットホームページ
 一京都その文化遺産の保護と未来のためにー[□]

もっと知れば
 もっと京都は
 おもしろい

京都の歴史
 や文化を体感
 し、訪れる
 方々と守り継
 ぐ人達が共感して結ぶネットワークを
 目指すホームページです。

URL <http://www.kyobunka.or.jp>



刊行物のご紹介

- 京都の六斎念仏（会員送料無料・税込） 3,150円
 - 京都のやすらい花（ 〃 ） 1,575円
 - 近代京都の名建築（ 〃 ） 1,890円
 - 京都大文字五山送り火（ 〃 ） 1,365円
 - 京都市文化財ブックス（すべて送料別）
- 第11集「京都近世の肖像画
 ー市内肖像画調査報告書ー」 1,300円
- 第12集「久多の山村生活用具」 1,300円

- 第14集「歴史的建造物の保存と活用
 ー京都市内の国登録有形文化財よりー」 1,300円
- 第15集「一枚の写真
 ー近代京都庶民生活写真引ー」 1,300円

■史跡パンフレット（送料のみ必要）

- 「名勝 双ヶ岡」、「史跡 御土居」,
 「史跡 天皇の杜」、「天然記念物 深泥池」
 希望部数／1種類120円分、4種類160円分の
 切手送付

※□はお電話で、■は郵送で当財団事務局まで
 お申し込み下さい。

編 集 後 記



□本号では、京都大学大学院工学研究科助手で、
 京都市近代化遺産調査委員会委員の田中尚人氏から
 京都の近代化遺産について、又京都市文化市民局文化財保護課の菅沼 裕技師から京都の庭園の
 歴史に関するご寄稿をそれぞれいただきました。

近年、明治以降の建造物や近代化遺産などについて、調査や文化財指定が進められております。当財団におきましても特に、京都の近代建築を紹介するカレンダーの発行、展覧会の開催、「長楽館」、「駒井邸」の特別見学会、又明治時代の京都を代表する別荘庭園「対龍山莊庭園」の特別公開などの事業を実施し、その普及啓発に努めてきました。

皆様におかれましても、京都の近代の文化遺産について、理解を更に深めていただきその保護にご支援ご協力をいただけるようお願い申し上げます。

会報 No.82

2001. 11. 15

会報題字／理事長 上山善紀

会報表紙／国指定名勝 対龍山莊庭園

撮影 神崎順一

編集・発行／財団法人京都市文化観光資源保護財団

京都市左京区岡崎最勝寺町京都会館内

〒606-8342 TEL 075 (752) 0235

FAX 075 (752) 0236